

9 . 応答関係

生活科の学習では、よく対象との『応答関係』という言葉が使われます。内容教科ではない生活科では、活動そのものが目標であり、内容になっています。つまり、ある決まった学ぶべき内容があって、それを獲得するために活動があるのではないのです。

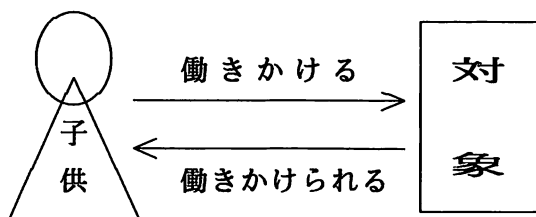
体験的に学んでいくことを重視する生活科の学習では、この対象との『応答関係』を考えていくことがとても大切です。

応答関係とは

応答関係は、子供と対象との関係を言う。

子供が対象に興味・関心をもち、見たり、触れたりするといった具体的な活動が始める。そこに対象とのかかわりが生まれる。子供は、自らの意志で対象にかかわることによって、様子の違いに驚いたり、これまで見たり聞いたりしたことのない事実を発見したり、新たな「こと」に気付いたりするなど、同時に対象から働きかけられてくる。

生活科では、このような対象に働きかけることと同時に働きかけられる関係を「応答関係」と呼ぶ。生活科の活動を考える上で特に大切にしたいことがらである。



—— 実践から ——

アサガオの栽培活動を考えてみます。種を手にした子供は、きれいな花を咲かせようと丹念に種を植えます。そして、水やりなどのお世話をすることによって、やがて芽が出てきます。子供は、芽が出てくる様子を見て驚き、自分が水やりをした（かかわった）事実と芽が出たという事実の相互の関係から喜びや効力感をもち、さらにかかわりを強めていきます。「アサガオのつるがのびてきたよ」「早く花が咲いてほしいな。しっかり水やりをしよう。棒を立ててやろう！」などの活動が生まれます。